

ダイヤ スーパーセラン アクアクリヤー

DIA



特長

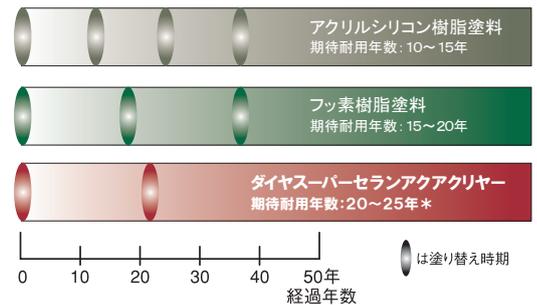
- ライフサイクルコストの削減…塗替えが少なく環境負荷低減。※図1
- 紫外線透過抑制(ダイヤスーパーセランアクアクリヤー)。※図3
- 超耐候性…フッ素樹脂塗料を凌ぎ20～25年経過しても高い光沢を維持し、変色が少ない。※図2
- 超低汚染…塗装後、耐汚染性を長期持続。

**ダイヤ
SPRクリヤープライマー**

+

**ダイヤ
スーパーセランアクア
クリヤー(水系)**

図1 ライフサイクルコストの比較



高耐久性塗料として位置付けられるアクリルシリコン樹脂塗料やフッ素樹脂塗料の場合、約50年間で2～3回の塗り替えが必要であるのに対し、ダイヤスーパーセランアクアクリヤーは1回の塗り替えで済むため、ライフサイクルコストの削減につながり、環境への負荷低減にも貢献します。

*2回塗りの場合2～3年延びます。

図2 促進耐候性試験(メタルハライドランプ式)

※試験は400時間暴露・劣化させたボード材をクリヤー塗装で改修し、さらに800時間暴露を行った。

ΔEが小さいほど白化が少ないことを示します。

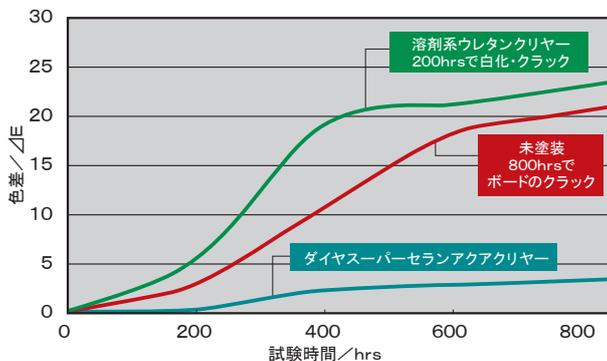
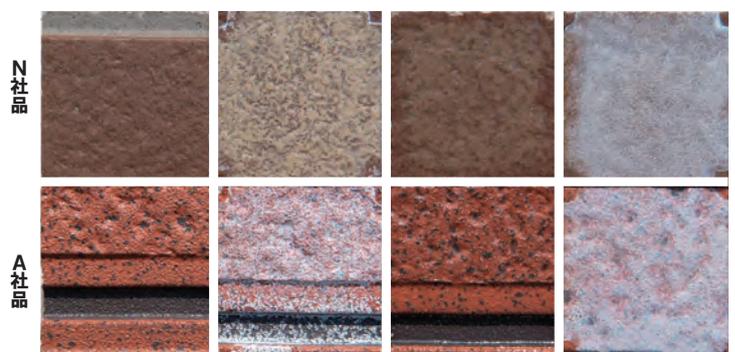


図3 S-UV促進試験800時間後の外観状態



※促進耐候性試験

S-UV 800hrs:約15年暴露の目安

400hr暴露したボード材でのS-UV試験

通常の試験より紫外線を強く当てて行う試験です。

ダイヤスーパーセラックアクリヤー

工程	材料	希釈割合	所要量	塗回数	工程		施工用具	
					工程内	工程間		
1	下地調整	(1) 下地に付着しているゴミ、ホコリ油脂類、異物は高圧水洗浄などで取り除いて下さい。 (2) 軽微なチョーキングや汚れはワイヤブラシ等でケレン後、高圧水洗浄で除去して、均一な状態にして下さい。 (3) チョーキングが多い面には適用できません。施工前診断を行い、白亜化等級2以下を目安にして下さい。 (4) 下地の表面に微細ひび割れが生じている場合は、本仕様による施工は避け、他の工法を選択して下さい。 (5) 雨上がり後は、均一に乾いてから施工して下さい。 (6) シーリング材面に塗装する場合は変色、汚染等が生じることがありますので、シーリング材は後打ちを基本として下さい。シーリング材を新規に打設しない場合は、シーリング材面を養生して塗装して下さい。 (7) 吹付面周辺は、汚れや損傷を与えないように養生紙や養生テープ等で完全養生して下さい。						
2	下塗り	ダイヤSPRクリヤープライマー 主 剤 硬 化 剤 ダイヤシンナー-N	7kg 1kg 0~1 ^{リットル}	0.10~0.15kg/m ² 54~80m ² /セット	1	—	1~5日	中毛ローラー 刷毛 エアレスユニット スプレーガン
	3	上塗り	ダイヤスーパーセラックアクリヤー 主 剤 硬 化 剤 清 水 刷毛・ローラー エアレス・スプレー	15kg 1kg 0~1.6 ^{リットル} 0~1.6 ^{リットル}	0.10~0.15kg/m ² 107~160m ² /セット	1	—	中毛ローラー 刷毛 エアレスユニット スプレーガン

* 間隔時間は、温度23℃、湿度50%の場合です。冬期、夏期では、温度、湿度によって間隔時間にかなりの差異がありますので注意して下さい。

可使時間

季節	気温	ダイヤ SPRクリヤープライマー	ダイヤ スーパーセラックアクリヤー
夏	25~35℃	2時間以内	2時間以内
春秋冬	5~25℃	4時間以内	4時間以内

■包装単位

ダイヤSPRクリヤープライマー 8kg(主剤7kg/硬化剤1kg)セット
 ダイヤシンナー-N 16^{リットル}缶
 ダイヤスーパーセラックアクリヤー 16kg(主剤15kg/硬化剤1kg)セット
 3.2kg(主剤3kg/硬化剤0.2kg)セット

施工・保管上の注意点

- 【塗装面の調整(新設)】
 ①素地に付着している塵、汚れ、油脂類、レタス等を完全に除去して下さい。
 ②セメント系下地は、表面の含水率10%以下(pH10以下)になるまで放置して下さい。下地モルタルは十分に乾燥させて下さい。モルタルの乾燥期間は、夏期で1週間、冬期で2週間以上が必要です。コンクリート下地は、夏期で2週間、冬期で3週間以上乾燥が必要です。
 ③雨上がり後は、均一に乾いてから施工して下さい。
 ④PCパネル、現場打ちコンクリートの場合
 1)豆粒、木コ、破損箇所、不陸などは、セメントフィラー、セメントシス#2000、セメントシス#2500、リマモル70等の下地調整材を使用し、補修して平滑して下さい。
 2)表面が緻密でレタス層がある場合は、レタスを除去し、ダイヤガンシーラー又は、ダイヤシーラーエポをご使用して下さい。
 ⑤ALCパネルの場合
 ダイヤカチオンフィラーを塗布して下さい。
 【塗装面の調整(改修・改修共通)】
 ①屋上防水、目地排水管などの不透水箇所については、事前に十分に点検し適切な処置をして下さい。
 ②使用シーリング材の種類により塗膜のひび割れ、剥離、ブリード等の異常を生じる場合があります。あらかじめ塗装仕様を確認して下さい。
 【塗装面の調整(改修)】
 ①各現場の改修工事仕様に基き劣化部分の補修や既存塗膜の処理(ケレン、清掃、高圧水洗浄)などを行って下さい。
 ②塗膜層が厚い場合には、取り除いてから施工して下さい。
 ③チョーキングは、セーダー、ワイヤブラシ等でケレン後、高圧洗浄で除去して下さい。
 【材料の保管・管理】
 ①開封した材料は必ず密封し、直射日光や雨露を避けて保管して下さい。
 ②材料の保管は凍結や温度上昇による変質を避けるため、気温5~35℃で、密封のまま直射日光を避け、屋内に貯蔵して下さい。長時間貯蔵したものは十分攪拌し、変質の有無を確認して下さい。
 ③B液は高気化性のため、使用後は必ず密封し、水分が混入しないように保管して下さい。
 ④B液は危険物ですので、火気や換気には十分注意して保管して下さい。
 【施工】
 ①気温5℃以下、降雨、降雪、強風下および湿度85%以上の場合、または予想される場合には施工を避けて下さい。また作業後に、降雨、降雪の恐れがある時は雨(雪)養生をして下さい。
 ②材料は使用前に十分攪拌し、均一にしてから使用して下さい。配合割合を誤りますと、成膜不良や本来の塗膜性能が発現できませんので注意して下さい。
 ③材料は付着乾燥しますと取れませんが、完全に養生をせずに、塗付面周辺の養生を完全に行ない、施工時塗物の周辺に飛散しないように注意して下さい。また、塗付後は、速やかに養生紙や養生テープを取り除き清掃して下さい。乾燥後、養生テープを取り除く場合はカッターを入れて下さい。そのまま取り除きますと珪が残りパワとなります。
 ④乾燥時間は、温度、湿度、および、風等により差異を生じます。
 ⑤コンプレッサーを使用する場合は必要十分な能力以上のものをご使用下さい。
 ⑥下地は十分に乾燥してから施工して下さい。乾燥不十分の場合、色ムラ、剥離等の生じる原因となります。
 ⑦施工にあたっては、同一方法で、入り隅、出隅等見切りの良いところまで仕上げて下さい。同一壁面途中での塗り継ぎは色違いやムラの原因になります。
 ⑧施工後24時間以内に降雨、結露等があった場合、水分の影響で白化や色ムラが発生し、壁面に残る場合があります。
 ⑨本施工に入る前に試験塗りをし、施工のタイミング、粘度、塗布量などをチェックし、仕上がりムラにならないよう確認して下さい。
 ⑩希釈する場合、希釈量を厳守して下さい。薄め過ぎるときれいに仕上らないことがあります。特に濃色や下地の吸い込みがない場合は少なめに希釈して下さい。
 ⑪常に結露が発生する地域・時期での施工は避けて下さい。
 ⑫安全衛生上の注意事項については、容器の表示も合わせてご参照下さい。
 ⑬一度に厚く塗ると色分けや発泡が生じることがあるため、間隔時間を守り、規定回数以上に分けて塗布して下さい。
 ⑭塗装した地によって、塗布量が変わる場合があります。

- ⑮フッ素や無機系などの難接着塗料処理がされている下地については、付着性が十分に発揮されないおそれがありますので、ご使用の場合は最寄りの営業所へご相談下さい。
 ⑯可成り使用時間及び塗膜厚は厳守して下さい。耐衝撃性の低下の原因となります。
 ⑰使用した器具類は直ちに洗浄して下さい。放置すると硬化して洗浄することが難しくなります。
 ⑱濃色や原色に近い色の場合、強くすると色が取れる場合があります。
 ⑲下地の吸い込みムラにより色彩のムラが発生する場合があります。
 ⑳シーラーと上塗りを混合するとゲル化する恐れがありますので、容器・刷毛・ローラーなどの共用は避けて下さい。
 ㉑上塗材を施工する場合は、下塗り後の乾燥状態を確認して下さい。
 ㉒既存塗膜の劣化が著しい場合、また既存塗膜がセメント系の場合には高圧水洗浄後にダイヤガンシーラーまたはダイヤワイドシーラーを塗布して下さい。
 ㉓B液は水系のA液となじみにくいため、必ず電動攪拌機等により混合して下さい。手で軽く攪拌しただけでは硬化不良となり、艶が発現しない場合がありますので注意して下さい。
 ㉔小出し混合する場合は、混合比のずれが生じないよう、必ず台秤・上皿電子天秤等を用い、重量比の配合割合は厳守して下さい。配合割合を誤りますと、成膜不良や本来の塗膜性能が発現できませんので注意して下さい。
 ㉕施工後、塗膜が乾燥するまで、換気などにより水分の影響を受ける状態が継続された場合、低汚染機能が現れないことがあります。乾燥までに降雨や積雪、結露が予想される場合は施工を避けて下さい。
 ㉖予想外の降雨などが発生した場合は、シート養生などを行い塗膜が濡れないよう対策を講じて下さい。
 ㉗施工部位により、低汚染性が十分に発揮されないケースがあります。雨掛りでない部位や斜壁、水切りが不十分な面や窓まわり及びその下側面などは、低汚染機能が現れないことがあります。
 ㉘シーリング材などに含まれる可塑剤、煤煙や油類、サビ汁などが原因の汚染物質に対しては、低汚染機能が十分に発揮されません。
 ㉙上塗は塗布量を厳守し均一に施工して下さい。塗布量が少ない場合は低汚染機能が十分に発揮されません。
 ㉚塗布面の吸い込みが大きい場合は、下塗などより吸い込みを少なくし、上塗が塗布面に吸い込まれないようにして下さい。表面に上塗材が十分に確保されていないと耐水性、低汚染機能が現れません。
 ㉛A液とB液は指定の割合で混合し、電動攪拌機を用い十分に混合(2分以上)して下さい。
 ㉜A液とB液の混合比が不適切であったり、B液を混合しなかつた場合は、低汚染機能が現れません。
 ㉝タッチアップに使用する場合は、上塗のA液、B液の缶を良く振り、沈降分離していないものを指定の割合で計量混合し、電動攪拌機を用い同様混合して使用して下さい。
 ㉞A液とB液の混合後は可成り時間以内に使用して下さい。可成り時間を超えて使用した場合、作業性や仕上がり、汚染機能が現れない場合があります。

【安全衛生上の注意】

- ①取扱いは、できるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて防護マスク、保護メガネ、保護手袋を着用して下さい。
 ②取扱い後は、手洗い及びうがいを行って下さい。
 ③子供の手の届かない所に保管して下さい。
 ④作業中・作業後は十分換気を行って下さい。
 ⑤廃塗材、廃容器、洗浄水等は、産業廃棄物処理業者に委託して処理して下さい。
 ⑥目に入った場合には、直ちに多量の水で15分以上洗い、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。
 ⑦顔や顔面に入った場合には、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。
 ⑧中身を適切に切った後廃棄して下さい。
 ⑨皮膚に付着した場合には、直ちに石鹸と多量の水で洗い落とし、痛み又は外観に変化があるときは医師の診断を受けて下さい。
 ⑩臭い、蒸気等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診断を受けて下さい。
 【その他】
 ①その他、詳しくは最寄りの各営業所へお問い合わせ下さい。
 ②施工に際し、施工・管理上の詳細な注意事項については仕様書等をご確認ください。
 ③施工に際し、安全衛生上の詳細な注意事項については安全データシート(SDS)をご確認ください。

2023年4月1日よりシーカグループの株式会社ダイフレックスは日本シーカ株式会社と統合され、新たに **シーカ・ジャパン株式会社** としてスタートいたしました。

製品・工法に関するお問い合わせはホームページのブランドサイト <https://www.dia-dyflex.jp/> にてご確認のうえ各地域のオフィスまでお願い申し上げます。